読書の小径

Vol.149

土岐市図書館
☎(55)1253

新刊案内

「むしむしとことこ
どこいくの？」

林よしえ

「めがねがなくても
ちゃんとみえてるもん！」

エリック・バークレー/さく
木坂涼／やく

教養としての聖書 ---------- 橋爪大三郎
明治の長崎撮影紀行 ---------- 森望
進化の謎を数学で解く --- アンドレアス・ワグナー
切り裂きジャック127年目の真実
---------- ラッセル・エドワーズ

東京パフェ学 ---------- 斧屋
ステンドグラス巡礼 ---------- 松尾順造
それでも世界は文学でできている -------- 沼野充義
小さな緑の世界テラリウムをつくろう
--- ミシェル・インシアラーノ,ケイティ・マスロウ

「敗者から見る関ヶ原の戦い」

安土桃山時代の慶長5（1600）年9月15日、美濃国不破郡関ヶ原を主戦場として起こった天下分け目の戦い。戦いはわずか1日足らずで決着がつき、その後260余年の長きにわたり勝者側である徳川家の政権が続くことになります。今回は、誰もがよく知る関ヶ原の戦いを、敗者側の視点で書いた本を中心に紹介します。

岩井三四二『三成の不思議なる条々』。関ヶ原の戦いから30年。戦の記憶も薄れた泰平の江戸で、「在りし日の石田三成」の聞き書きの作成の密命を受けた一人の町人。町人は、全国に散らばる関ヶ原の戦いに関わった生存者たちと面会します。多種多様の視点から語られる「関ヶ原」、そして「三成」の素顔。町人が受けた密命の先に見えるものとは―。

池田平太郎『毛利輝元　傾国の烙印を押された男』。関ヶ原の戦いで西軍の総大将に担ぎ上げられてしまったがために、祖父である元就が築いた百二十万石をわずか三十万石にしてしまい、「傾国」の烙印を押された輝元。「暗愚の将」とまで言われた輝元の生涯を歴史的検証を踏まえながら描きます。

本郷和人『戦国武将の明暗』。戦国時代―。日本史上最も過酷な時代に、武将たちは何を考え、どう行動したのか。「関ヶ原の戦い」という天下分け目の決戦を中心に、生き残りを賭けた戦国武将たちの明暗を解き明かします。

10月の休館日

1日(木)、2日(金)、5日(月)、19日(月)
23日(金)、26日(月)

開館時間

火～金曜日　　午前10時～午後7時
土・日曜日、祝日　午前10時～午後5時
図書館は無料でご利用いただけます。

お知らせ

視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」が利用可能となりました。市内在住の視覚障がい者の方で障がいの程度が1～4級に該当する方、または療育手帳を所持している方は、市図書館に利用者申請・登録することにより、無料で各種サービス（音声データによる図書の提供など）を自宅のパソコンなどから利用できます。詳しくは問い合わせください。